



R3 年度小学校英語授業づくりプロジェクト (第 1 回目研修)

私の授業実践 ⑩ ～大津町立大津小学校 水野 今日子 先生～

5 年 単元名「What do you have on Monday?」

○単元を通じた学習課題

自分のことを知ってもらうために、「夢をかなえる時間割」で、学びたい教科やオリジナルの時間割などについて伝えよう。

○本時の目標 (8/8)

自分のことをよく知ってもらうために、「将来の夢クイズ」の活動を通して、学びたい教科や自分の夢について紹介することができる。

「活動→指導→活動」の繰り返しにより、目標達成に向けた授業を展開する

本時は、単元最後の授業。話し手は自分の「夢をかなえる時間割」を伝え、聞き手はその発表を聞いたり簡単な質問をしたりしながら友達の「将来の夢 (なりたい職業)」を推測して当てるといった活動でした。子供たちは、パートナーを交替しながら計 3 回のペアによる発表を行いました。

今回の水野先生の授業実践で特に注目したい点は、活動と活動の間に必ず「中間指導」の時間を設定されたことです。さらに、2 回の「中間指導」では、子供たちの活動の様子を観察しながら、本時の目標達成に向けて必要だと思われることを適宜取り上げ、よりよい学習に向かうように方向付ける指導や助言がなされました。

例えば、1 回目の言語活動。子供たちは、各自の「夢をかなえる時間割」の中に、「decoration」「edit technique」など、オリジナルの教科を 1 つ加えて発表していました。当然、ペアの相手にとっては聞きなれない単語であり、「What's decoration?」などと、質問し合います。事前に準備した写真などを示しながら、何とか伝えようとしますが、なかなか相手に思いが伝えられず、どのペアも戸惑っている様子が見られました。ここで、1 回目の「中間指導」が入りました。水野先生は、ALT の藤崎先生に「video editing (ビデオ編集)」という言葉を取り上げて、子供たちになじみのある英語やジェスチャーを使って伝える様子を示してもらいました。実際に藤崎先生がやって見せることで、子供たちは、相手の質問に対して、知っている英語で言い換えたり、ジェスチャーで示したりすることの効果を実感することができました。

そして 2 回目の言語活動。どのペアも 1 回目より、さらに活発にコミュニケーションを図る様子が見られました。その一方で、今度は、本単元で定着させたい「What do you have on Friday?」「What's my dream?」などの表現がうまく活用できていない様子が見られました。ここで、水野先生は 2 回目の「中間指導」として、これらの表現を子供たちが自信をもって発話できるように、一斉に発話し、既習表現を確認する時間を取られました。

このような授業展開を通して、最初はたどたどしい発話だった子供が自信をもって発表したり、英語やジェスチャーを駆使しながらコミュニケーションを継続したりする子供の姿が徐々に増えていきました。

十分な教材研究を行い、深い児童理解のもとに単元計画を立てていても、実際に授業をやってみると、教師の思いや計画と子供の実態にずれが生じるということはしばしばあります。実際、今回の授業でも、水野先生は、当初想定していた子供の実態とは異なる様子に直面されましたが、目の前の子供たちの課題を見取り、学習改善のために今必要だと考える指導を、中間指導として臨機応変に取り入れられました。

このようなことができるためには、指導者自身が単元の目標や評価規準を明確に持って指導に当たることが欠かせません。



デモンストレーションの様子